

APCV2008 報告

APCV (Asia-Pacific Conference on Vision) が7月18日~7月21日にオーストラリアのブリスベンで開催された。前回2006年松江のACV (Asian Conference on Vision) にて、名称をAPCVに変更しオーストラリアを含めることを決め、2008年のオーストラリアでの開催となった。企画としては3件の基調講演、6件のシンポジウムがあり、それらは多岐にわたる内容で、個人的には様々な話を聞くことができる大変貴重な機会となった。一般講演は、口頭発表60件、ポスター発表86件であり、参加人数は200名で、内訳は比率でオーストラリア39%、日本35%、韓国5%、台湾5%、アメリカ、イギリス、カナダが3%、中国2%、イタリア、ベルギー、イラン、ニュージーランド、オランダが1% のことである。種々の理由で韓国と中国からの参加者が少なめであったが、多くの人と話す機会を持つことができる規模の会議で大変楽しい時間を過ごすことができた。

学生の発表に対する口頭発表とポスター発表それぞれに対する表彰 (Cambridge Research Systems 社の助成による) は、下記の2名となった。

The best student poster presentation:

Hsin-I Liao, Retrieval of visual percept by paired association of a visual stimulus and transcranial magnetic stimulation (TMS): Effect of TMS delay

The best student talk:

Deborah Apthorp, Spatial-frequency and orientation specific adaptation caused by “motion streaks”

審査結果の詳細は公開されていないが、日本人発表者に対する評価も悪くはなかったようである。

組織委員会では、次回についての話し合いがあり、2010年に台北(台湾)での開催を決めた。香港も開催に立候補していたが準備状況などを考えると、前回の松江のときから開催を検討していた台湾での開催が妥当であるとの判断であった。また香港も開催を希望しているので、台湾の次の開催を香港でということも決めた。それにともない、2011年に香港開催として毎年の開催にしてはどうかとの案も検討されたが、今回は決定せず、2011年あるいは2012年の開催ということにとどめた。毎年開催の利点としては、会議の活性化や存在のアピールに繋がる点で重要性が認識された。現在開催実績および予定があるところは、日本、韓国、中国、オーストラリア、台湾、香港の6カ所であり、毎年開催になれば、日本での開催は6年に1度程度、隔年であれば、12年に1度程度ということになる。日本での開催は、多くの学生の参加などが見込めることもあり、頻繁に行われることの利点も多い。その反面、毎年開催の場合に参加者が減る可能性もあるし、視覚学会としては夏季、冬季大会との関連の問題もある。東アジアの近隣諸国での情報交換の場としての意義とアメリカ、ヨーロッパに対する第3極としての意義について、どう考えるか、バランスをとるかによって今後の方針、展開も変わっていくものと思う。(塩入 論)



(写真：蘆田 宏)